



# 七本松

平成19年7月17日発行  
木之本ライオンズクラブ  
広報・情報・会報編集委員会  
発行所  
滋賀県伊香郡木之本町木之本  
伊香郡民会館2Fクラブ事務局  
TEL.木之本(0749)82-5425

## 会長に就任して 今こそ「感謝の奉仕(返謝)」を



会長 L 谷口 武男

平成十九年度、第四十四代会長に就任させていただくにあたりご挨拶申し上げます。

私が木之本ライオンズクラブに入会させていただいてから早いもので二十一年が過ぎました。先輩方の後について色々な活動に参加させていただきまして。中でも忘れがたいのは伊香郡内特別支援学級児童の一日バス旅行です。何回か同行させていただいていますが、ある年、卒業を迎えるため最後のバス旅行になる児童から、手紙をもらいました。そこには毎年この旅行を楽しみにしていたこと、行った先々での思い出と感謝の気持ちが綴られていました。この手紙を読んだとき初めて(と言ってしまうと誤解を招きそうなのですが)ウィサーブの意味を頭ではなく心で理解できたように思いました。

これは長年、我がクラブの先輩諸兄が地域に根付いた真の奉仕活動が続けてこられた、努力の賜物に他ならないと頭の下がる思いが致しました。それと共にこの活動を必ず次の世代に継承しなければならぬと…。

前会長も昨年の基本方針に「初心に戻り」と述べておられます。私もその基本方針を踏襲し「ウィサーブ」(我々は奉仕する)の意味を再認識したいと思えます。

地域の人の協力の輪に支えられて生きていくことに思いを致しその地域社会に感謝の気持ちをお返しす

と云う意味で「感謝の奉仕(返謝)」を本年度のスローガンにさせていただきます。「返謝」とは陶芸家の北川八郎氏が著書「繁栄の法則」の中で使っておられる造語であります。そして「感謝は返謝をしてこそ完成する」と締めくくっておられます。

昨今、ライオンズクラブの置かれている環境は誠に厳しいものであるが故に、今地域に求められている活動を模索し定着させて行きたいと思っております。

ライオンズクラブには社会奉仕活動が目立つことを、よしとしない伝統があります。確かに社会奉仕というの謙虚な態度で臨むのが本来の姿であり、進んで社会に知らせる行為はライオンズクラブの精神から逸脱するものなのかも知れません。

しかしクラブメンバーの家族も活動内容をあまり知らないという状況は、一考の余地があるのではないだろうかと考えます。

伊香郡スポーツ少年団交流大会のよう、ライオンズクラブだけでなく他の組織の協力を得て地域の方々と共に活動する事が出来るならばWeの輪が広がり、より質の高い内容の活動が出来るのではないのでしょうか。

来年の社会情勢が一体どうなるのか全く予測が付きません。しかしこの伊香郡にとって良い方向に進むとは思えません。若い人は出会いの場もなく、

街へ出て行くことが当たり前になり、人口は減少の一途をたどるのみ。悲観的にとらえれば後ろ向きになるばかりですが、現実には冷静に受け止めなければなりません。そういう避けがたい情勢の伊香郡において木之本ライオンズクラブの存在意義は大きいと思います。深い知恵と洞察力を持ち、その上幅広い人脈をも兼ね備えた方々の集まりであることを思い起こそうではありませんか。

すでに平成十四年度の会長、L藤田毎馬が「これまでの考え方・価値観では社会情勢に対応出来ない」と警鐘を鳴らしておられます。先輩方の言葉の

## 7R2Zゾーンチェアパーソンに就任して



3351C地区  
7R2Zゾーンチェアパーソン  
L 藤田 毎馬

浅学非才ながら、本年度7R2Zゾーンチェアパーソンをお引き受けることになりました。車とぶつかっても車の方がへこみそうな私ですが、その責任の重さを痛感し、実は、皆さんのご想像以上に緊張している昨今です。

過日の六月五日にはキャビネット予備会議に出席し、新ガバナーの意向を伝えるべく六月八日には、当クラブホストにてゾーン内のガバナー諮問予備会議を開催し、各クラブの新会長・新幹事さん方と親しくお話をさせていただく機会を得ました。各クラブともに、世情厳しい中、会員増強には苦慮されているようです。他の諸々のことでも、ゾーンの中では「南」のクラブも「北」のクラブも同じような考えであることを知り、少し「ホット」としました。

私としては、各クラブが、あくまで

引用ばかりでお恥ずかしいのですがL橋本圭祐が会長に就任された時「真のアクティビティとは何か、質の良いアクティビティとは何か求め続けてゆきたい」と仰っておられます。歴代会長諸氏が危惧し求めて来られた事を思い起こすと共に、この木之本ライオンズクラブを創設し維持してこられた偉大な先輩諸兄の思いに報いるためにも「感謝の奉仕(返謝)」を続けたいと思えます。



(6月5日)キャビネット予備会議 於 京都リーガロイヤルホテル



(6月8日)第1回ガバナー諮問予備会議 於 杉野「長治庵」

も身の丈に応じたACTを展開し、又ライオンズ本来の「友愛と寛容の精神」を以って「情」のある人間関係を築き、決して背伸びをせず、まず足元を固めることこそが今は大事と思っております。

私の背中には「木之本ライオンズクラブ」の看板が貼られています。その重さに、あらためて身の引き締まる思いが致します。私にとっては長い一年間となることと思えます。新会長始め、皆様方のご協力を切にお願い申し上げます。

